

「長

野県は海がないのに、どうして海洋大？」。自己紹介で長

野県出身というところ、このような反応は少なくありません。この場合、「だからこそ海に憧れがあるのですよ」とお茶を濁すようにしています。私が海洋大で勉強している理由は二つあります。

ひとつは、これからの日本の経済発展の道は海にあると考えているからです。面積が狭く石油や鉱物資源の乏しい日本は、代わりに四方を豊かな海に囲まれています。食料資源としての海はもちろんです、海から新しいエネルギーを取り出すことができれば、他国に依存することなく日本独自の発展を遂げられるのではないかと、この思いを強くさせられたのは東日本大震災による原発事故でした。二酸化炭素を大量に排出する火力エネルギーでもなく、見えないうるデメリットの大きい原子力エネルギーでもない、今後の時代に合うエネルギーを開発していかなければなりません。

トーク

海洋を 様々な側面から学ぶ

長坂明子 (高63回)

●ながさか・あきこ

東京海洋大学海洋科学部海洋環境学科3年。
高陵中学出身。



大学では座学だけでなく、実際にフィールドに出て海洋を様々な側面から学び、海はまだ多くの可能性を秘めていることを日々実感しています。

もうひとつは、尖閣諸島や竹島問題といった毎日のように報道されるニュースを見て、海洋利用に関する国際協調の必要性を強く感じているからです。

日本がきちんと自国の領海を守ることでなければ、先に述べた新しいエネルギーといった研究を続けることは難しいでしょう。戦争の多くは国境争い、領土問題が関わっています。そのため、自国の領海を守る意義は、海洋資源の有効活用のためだけでなく、国際協調と平和を保つことにも繋がるのではないのでしょうか。

日本を支える新しいエネルギー、そして海洋利用に関する国際協調を軸に勉強し、残りの大学生活を充実させ、陸の問題は海から解決できるといふことを証明していきたいです。